

研修機関が公表すべき情報の内訳

別紙 5

研修機関情報	法人情報 ☆	● 法人格・法人名称・住所等 学校法人 菊武学園 愛知県尾張旭市新居町山の田 3255-5 ● 代表者名、研修事業担当理事・取締役名 理事長 高木 弘恵
	研修機関情報 ☆	● 事業所名称・住所等 名古屋経営短期大学 愛知県尾張旭市新居町山の田 3255-5 電話番号 0561-54-9611 ● 理念 職業教育を通じて、豊かな人間性と技能を育み、社会に貢献し、社会とともに幸せな生活を営むことのできる人材を育成する。 ● 学則 以下の URL に掲載 https://www.ic.nagoya-su.ac.jp/manage2020/wp-content/uploads/2020/10/gakusoku2020.pdf ● 研修施設、設備 名古屋経営短期大学 教室及び実習室
研修事業情報	研修の概要	● 対象 名古屋経営短期大学 在学者 ● 研修のスケジュール（期間、日程、時間数） 別紙「研修日程表」参照 ● 定員（集合研修、実習）と指導者数 定員 19 名 指導者数 6 名 ● 研修受講までの流れ（募集、申し込み） 令和 3 年 4 月 9 日～令和 3 年 4 月 12 日 教務課にて受付 ● 費用 受講は無料ですが、教科書代・実習材料費は別途自費負担となります。 ● 留意事項、特徴、受講者へのメッセージ等 教科書代は実費負担（7,000 円程度）です。教科書代は、研修申し込み時に支払ってください。
	課程責任者	● 課程編成責任者名 山本 芳功
	研修カリキュラム	● 科目別シラバス 別紙シラバスを参照ください ● 科目別担当教官名 別紙研修日程表を参照ください ● 科目別特徴（演習の場合は、実技内容・備品、指導体制）

	修了評価	別紙シラバスを参照ください ● 修了評価の方法、評価者、再履修等の基準 修了評価の方法：修了試験 評価者：大橋 美加子 再履修等の基準：修了評価の得点の6割未満のものは再試験を実施します。
	実習施設 (実習を行う場合)	
講師情報		● 名前 上田 智子 ● 略歴、現職、資格 愛知県立看護大学大学院地域看護学専攻修了 看護学修士 岡崎女子短期大学専任講師、名古屋経営短期大学講師、准教授を経て現在名古屋経営短期大学健康福祉学科教授 ● 名前 岡崎 強 ● 略歴、現職、資格 南山大学大学院経済学研究科 博士課程修了 経済学博士 同朋大学 教授を経て、現在名古屋経営短期大学健康福祉学科教授 ● 名前 岩本 義浩 ● 略歴、現職、資格 東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科福祉社会システム専攻修士課程修了 修士（社会福祉学） 横浜らいず・地域生活支援センター海主任ケアワーカー・副センター長、横浜国際福祉専門学校介護福祉学科専任教員、植草学園短期大学福祉学科地域介護福祉専攻専任講師、四国大学短期大学部人間健康科介護福祉専攻准教授を経て、現在名古屋経営短期大学健康福祉学科准教授 ● 名前 川角 真弓 ● 略歴、現職、資格 同朋大学大学院人間福祉研究科 修士、 介護老人保健施設勤務後、日本聴能言語福祉学院教員、名古屋経営短期大学健康福祉学科助教、講師を経て現在名古屋経営短期大学健康福祉学科准教授 介護福祉士 ● 名前 大橋 美加子

	● 略歴、現職、資格 放送大学大学院 文化科学研究科修士課程修了 修士 学校法人石川学園 池上台幼稚園教諭、社会福祉法人 緑生福祉会 介護士を経て、現在名古屋経営短期大学健康福祉学科講師 介護福祉士 ● 名前 都馬 友江 ● 略歴、現職、資格 東海学園女子短期大学生活学科卒業 老人保健施設松和苑（介護職員）を経て、現在名古屋経営短期大学 講師 介護福祉士
実績情報	● 過去の研修実施回数(年度ごと) 平成 27 年度 1 回 平成 28 年度 1 回 平成 29 年度 1 回 平成 30 年度 1 回 令和元年度 1 回 令和 2 年度 ● 過去の研修延べ参加人数（年度ごと） 平成 27 年度 5 名 平成 28 年度 3 名 平成 29 年度 4 名 平成 30 年度 5 名 令和元年度 2 名 令和 2 年度 1 名
連絡先等	● 申し込み・資料請求先 資料は配属ゼミ担当者に請求してください。 ● 法人の苦情対応者名・役職・連絡先 片岡 隆 学校法人 菊武学園 総務課長 0561-55-3021 ● 事業所の苦情対応者名・役職・連絡先 山本 芳功 名古屋経営短期大学 未来キャリア学科長 0561-54-9611（代表）

研 修 日 程 表 (通学) (旧)

様式2-1
定員19名

日付	時間	時間数	科目・ 項目 番号	科 目	項目名	講師氏名
4月13日(火)	10:40 - 12:10	1.5			開校式	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	1-1	1-	多様なサービスの理解	大橋 美加子
4月20日(火)	10:40 - 12:10	1.5	1-1	1-	多様なサービスの理解	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	1-2	1-	介護職の仕事内容や働く現場の理解	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	1-2	1-	介護職の仕事内容や働く現場の理解	川角 真弓
4月27日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-1	9-	介護の基本的な考え方	上田 智子
	13:00 - 14:30	1.5	4-1	4-	介護保険制度	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	4-1	4-	介護保険制度	川角 真弓
5月11日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-1	9-	介護の基本的な考え方	上田 智子
	13:00 - 14:30	1.5	4-1	4-	介護保険制度	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	9-3	9-	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	大橋 美加子
5月18日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-3	9-	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	9-2	9-	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	上田 智子
	14:40 - 16:10	1.5	9-3	9-	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	大橋 美加子
5月25日(火)	10:40 - 12:10	1.5	2-1	2-	人権と尊厳を支える介護	岡崎 強
	13:00 - 14:30	1.5	2-1	2-	人権と尊厳を支える介護	岡崎 強
	14:40 - 16:10	1.5	9-2	9-	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	上田 智子
6月1日(火)	10:40 - 12:10	1.5	2-2	2-	自立に向けた介護	岡崎 強
	13:00 - 14:30	1.5	2-2	2-	自立に向けた介護	岡崎 強
	14:40 - 16:10	1.5	2-1	2-	人権と尊厳を支える介護	岡崎 強
6月8日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-3	9-	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	9-4	9-	生活と家事	上田 智子
	14:40 - 16:10	1.5	2-2	2-	自立に向けた介護	岡崎 強
6月15日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-4	9-	生活と家事	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	9-4	9-	生活と家事	上田 智子
	14:40 - 16:10	1.5	9-4	9-	生活と家事	大橋 美加子
6月22日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-5	9-	快適な居住環境整備と介護	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	9-5	9-	快適な居住環境整備と介護	大橋 美加子
	14:40 - 16:10	1.5	9-5	9-	快適な居住環境整備と介護	大橋 美加子
6月29日(火)	10:40 - 12:10	1.5	5-1	5-	介護におけるコミュニケーション	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	8-1	8-	障害の基礎的理解	岩本 義浩
	14:40 - 15:25	0.75	8-2	8-	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	岩本 義浩
	15:25 - 16:10	0.75	8-3	8-	家族の心理、かかわり支援の理解	岩本 義浩
7月6日(火)	10:40 - 12:10	1.5	6-1	6-	老化に伴うこころとからだの変化と日常	上田 智子
	13:00 - 14:30	1.5	6-2	6-	高齢者と健康	上田 智子
	14:40 - 16:10	1.5	5-1	5-	介護におけるコミュニケーション	都馬 友江
7月13日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-6	9-	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	9-6	9-	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	大橋 美加子
	14:40 - 16:10	1.5	6-1	6-	老化に伴うこころとからだの変化と日常	上田 智子
7月20日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-6	9-	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	9-6	9-	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	大橋 美加子
	14:40 - 16:10	1.5	6-2	6-	高齢者と健康	上田 智子
7月27日(火)	10:40 - 12:10	1.5	3-2	3-	介護職の職業倫理	大橋 美加子
	13:00 - 14:30	1.5	7-1	7-	認知症を取り巻く状況	都馬 友江
	14:40 - 16:10	1.5	3-1	3-	介護職の役割、専門性と多職種との連携	大橋 美加子
9月28日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-7	9-	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-8	9-	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	7-2	7-	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	都馬 友江
10月5日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-7	9-	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-8	9-	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	9-8	9-	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	川角 真弓
10月12日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-7	9-	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-8	9-	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	9-9	9-	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	川角 真弓
10月19日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-7	9-	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-9	9-	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	9-9	9-	入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	川角 真弓
10月26日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-7	9-	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-11	9-	睡眠に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	上田 智子

研 修 日 程 表 (通学) (旧)

様式2-1
定員19名

日付	時間	時間数	科目・ 項目 番号	科 目	項目名	講師氏名
	14:40 - 16:10	1.5	9-9	9-	入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	川角 真弓
11月2日(火)	10:40 - 12:10	1.5	5-2	5-	介護におけるチームのコミュニケーション	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-11	9-	睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	上田 智子
	14:40 - 16:10	1.5	4-2	4-	医療との連携とリハビリテーション	川角 真弓
11月9日(火)	10:40 - 12:10	1.5	7-3	7-	認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-11	9-	睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	上田 智子
	14:40 - 16:10	1.5	3-3	3-	介護における安全の確保とリスクマネジメント	大橋 美加子
11月30日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-10	9-	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	4-3	4-	障害者自立支援制度およびその他制度	岩本 義浩
	14:40 - 16:10	1.5	5-2	5-	介護におけるチームのコミュニケーション	都馬 友江
12月7日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-10	9-	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-12	9-	死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	上田 智子
	14:40 - 16:10	1.5	7-4	7-	家族への支援	都馬 友江
12月14日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-10	9-	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-12	9-	死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	上田 智子
	14:40 - 16:10	1.5	4-3	4-	障害者自立支援制度およびその他制度	岩本 義浩
12月21日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-10	9-	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-14	9-	総合生活支援技術演習	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	9-12	9-	死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	上田 智子
1月11日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-14	9-	総合生活支援技術演習	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-14	9-	総合生活支援技術演習	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	9-14	9-	総合生活支援技術演習	川角 真弓
1月18日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-14	9-	総合生活支援技術演習	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	9-13	9-	介護過程の基礎的理解	川角 真弓
	14:40 - 16:10	1.5	9-13	9-	介護過程の基礎的理解	川角 真弓
1月25日(火)	10:40 - 12:10	1.5	9-14	9-	総合生活支援技術演習	都馬 友江
	13:00 - 14:30	1.5	3-4	3-	介護職の安全	大橋 美加子
1月27日(木)	10:40 - 12:10	1.5	10-1	10	振り返り	上田 智子
	13:00 - 14:30	1.5	10-1	10	振り返り	上田 智子
2月8日(月)	10:40 - 12:10	1.5	10-2	10	就業への備えと研修修了後における継続的な研修	上田 智子
	13:00 - 14:30	1.5			終了試験・修了式	上田 智子
	-					

※講師選定要件(別紙2-1)等を確認した上で講師を配置すること。

○時間数

項目	時間数	項目	時間数
1	6時間	7	6時間
2	9時間	8	3時間
3	6時間	9Ⅰ	12時間
4	9時間	9Ⅱ	51時間
5	6時間	9Ⅲ	12時間
6	6時間	10	4.5時間
	合計		130.5時間

9Ⅰ～Ⅲの合計
75時間

介護職員初任者研修課程カリキュラム表

科(科目)名	内 容	実施計画	講師
(1)職務の理解 (6時間)	① 多様なサービスの理解	研修の全体像がイメージできるよう、研修科目全体の構成と各研修科目についての説明を行う。以降の研修を効率的・効果的に学習できるよう促す。	大橋美加子
	②介護職の仕事内容や働く現場の理解	現場職員の体験談を通して、サービス提供現場が具体的にイメージできるようにする。サービス提供に至るまでの多職種との連携、チームアプローチを学ぶ。	川角真弓
(2)介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	① 人間と尊厳を支える介護	人間や社会のあるべき姿を見つめながら、人権や尊厳を守ることの重要性を、その背景となる哲学や制度、法律とともに学習する。	岡崎強
	② 自立に向けた介護	具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら、自立支援や重度化防止に資するケアを理解する。	岡崎強
(3)介護の基本 (6時間)	①介護職の役割、専門性と多職種との連携	地域包括ケアの重要性や介護職の役割と専門性、多職種の理解と連携の方法について学習する。	大橋美加子
	③ 介護職の職業倫理	専門家としての社会的責任を十分に理解し、倫理に根ざした姿勢、支援の方法を学習する。	大橋美加子
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント	介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解する。安全を確保するための事故への備え、環境整備等、リスクマネジメントの考え方や方法を学習する。	大橋美加子
	④ 介護職の安全	介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点を学ぶ。	大橋美加子
(4)介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	① 介護保険制度	介護保険制度の理念や仕組みを理解する。各サービスや地域支援の役割について学び、サービス利用までの流れを理解する。	川角真弓
	②医療との連携とリハビリテーション	医療行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行える医療行為について理解する。施設における看護と介護の役割・連携について学ぶ。	川角真弓
	③障害者総合支援制度およびその他制度	利用者の生活を中心に考えるという視点で、生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他のサービスの位置づけについて学ぶ。	岩本義浩
(5)介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	①介護におけるコミュニケーション	利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考える。相手の心理機能に合わせた配慮が必要であると理解する。	都馬友江
	②介護におけるチームのコミュニケーション	チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解する。記録等を作成する意義・目的・書き方を学び情報の共有の大切さを学ぶ。	都馬友江
(6)老化の理解 (6時間)	①老化に伴うこととからだの変化と日常	加齢・高齢化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴を理解する。	上田智子
	② 高齢者と健康	高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて学ぶ。	上田智子
(7)認知症の理解 (6時間)	① 認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について理解する。介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。	都馬友江
	②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	認知症という疾患を理解し、一人ひとりの症状や障害に対するケアの方法を学習する。認知症の医学的な理解とともに予防や健康管理について理解する。	都馬友江
	③認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因について理解する。利用者との具体的な関わり方を学ぶ。	都馬友江
	④ 家族への支援	家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて学ぶ。事例を通して、介護者の思いを理解し、介護職員としてどのように支えられるか理解をする。	都馬友江
(8)障害の理解	① 障害の基礎的理解	障害の概念、障害を支える制度や仕組み、法律について学習する。障害者への介護にあたり、障害に関する基礎的理解を深める。	岩本義浩

(3 時間)	②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	視覚障害や聴覚障害をはじめ、内部障害、精神障害等について、各々の疾患や症状、介護における留意点について学習する。学習を通して、障害を正しく理解し、介護の基本的姿勢を学ぶ。	岩本義浩
	③家族の心理、かかわり支援の理解	家族の心理や障害受容、支援にあたっての留意点について学習する。介護においては、障害児・者だけでなく、家族にも寄り添うことの大切さを理解する。	岩本義浩
(9) ころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)	【ア 基本知識の学習 (10～13 時間)】		
	① 介護の基本的な考え方	介護の基本的な考え方として、介護の理念や法的根拠、介護を行ううえでの視点について学習する。利用者を主体とする介護の意味を理解する。	上田智子
	②介護に関するころのしくみの基礎的理解	記憶や感情のメカニズムをはじめ、幸福感や生きがいを感じる自己の概念、さらには老化や障害の受容、適応について学習する。	上田智子
	③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	人体の各部の名称をはじめ、骨や関節の構造、中枢神経や自律神経と内部器官などの基礎的な知識を学習する。	大橋美加子
	【イ 生活支援技術の講義・演習 (50～55 時間)】		
	④ 生活と家事	生活支援としての家事サービスのあり方を明確にするとともに、実際の調理、洗濯、掃除等の家事サービスにおける留意点について学習する。	大橋美加子 上田智子
	⑤ 快適な居住環境整備と介護	快適な生活を送るために必要な居住環境の整備から、利用者が生活の各場面で活用できる福祉用具（機器）について学習する。	大橋美加子
	⑥整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	身なりを整えることの意義や目的、整容のために必要な支援の方法や技術について学習する。	大橋美加子
	⑦移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	移動・移乗の意義をはじめ、安全で安楽な介助を行うためのボディメカニクス、人体の構造や基本肢位の理解、具体的な介助技術について学習する。	都馬友江
	⑧食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	食事の意義と目的から、栄養に関する知識、代表な疾病における栄養や調理、さらに食事介助の方法について学習する。	川角真弓
	⑨入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	さまざまな生活動作を伴う入浴における介助をはじめ、清拭や部分浴に関する支援の方法を学習する。利用者ができることは利用者が行うといった、残存機能を生かした支援を学ぶ。	川角真弓
	⑩排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	排泄に関する基礎知識をはじめ、具体的な支援方法について学習する。利用者の尊厳を重視した介助のあり方を理解する。	都馬友江
	⑪睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	睡眠のメカニズムから、心地よい睡眠を確保するための環境や福祉用具の活用法、快い睡眠のための支援の方法を学習する。	上田智子
	⑫死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護	終末期ケアの基礎知識から、死にいたる過程、死を迎える高齢者と家族の心理と支援の方法を学習する。その人らしい死を迎えるための介護のあり方を学ぶ。	上田智子
	【ウ 生活支援技術演習 (10～12 時間)】		
	⑬介護過程の基礎的理解	支援を行ううえで、最も重要な介護過程の意義や目的など、介護過程の基本的な視点や姿勢について学習する。	川角真弓
	⑭総合生活支援技術演習	事例を通して、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。	川角真弓 都馬友江
(10) 振り返り (4 時間)	① 振り返り	研修の全課程を振り返り、研修を通して学んだこと、習得したことについての再確認を行う。	上田智子
	②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身に付けるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者が今後何を学習すべきか理解する。	上田智子

介護職員初任者研修シラバス

科目及び研修時間	1. 職務の理解（6時間）	
ねらい（到達目標）	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)多様なサービスの理解	3	【講義演習内容】 ○介護保険サービス（居宅、施設）、○介護保険外サービス
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解"	3	【講義演習内容】 ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ（視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による見学等） ○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携
（合計時間数）	6	

使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材 介護実習室設備品・教材など
------------	---

科目及び研修時間	2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）	
ねらい（到達目標）	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)人権と尊厳を支える介護	4.5	【講義演習内容】 (1) 人権と尊厳の保持 ○個人として尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護 (2) ICF ○介護分野における ICF (3) QOL ○QOL の考え方、○生活の質 (4) ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 (5) 虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援 (6) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業
(2)自立に向けた介護	4.5	【講義演習内容】 (1) 自立支援 ○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性／個別ケア、○重度化防止 (2) 介護予防 ○介護予防の考え方
(合計時間数)	9	

修了時の評価ポイント	・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。
------------	---

	・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材

科目及び研修時間	3. 介護の基本（6時間）	
ねらい（到達目標）	・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5	【講義演習内容】 (1) 介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム (3) 介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担
(2)介護職の職業倫理	1.5	【講義演習内容】 職業倫理 ○専門職の倫理の意義、○介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	【講義演習内容】 (1) 介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、○情報の共有 (3) 感染対策

		○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、 ○「感染」に対する正しい知識
(4)介護職の安全	1.5	【講義演習内容】 介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策
(合計時間数)	6	

修了時の評価ポイント	・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 ・生活支援の場では会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 ・介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材

科目及び研修時間	4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）	
ねらい（到達目標）	介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)介護保険制度	4.5	【講義演習内容】 (1) 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、 ○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、 ○予防給付、○要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定
(2)医療との連携とリハビリテーション	1.5	【講義演習内容】 ○医行為と介護、○訪問看護、○施設における看護と介護の役割・連携、 ○リハビリテーションの理念
(3)障害者総合支援制度およびその他制度	3	【講義演習内容】 (1) 障害者福祉制度の理念 ○障害の概念、○ICF（国際生活機能分類） (2) 障害者自立支援制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3) 個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業
（合計時間数）	9	

修了時の評価ポイント	・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ・介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサー
------------	---

	ビスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 ・医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材

科目及び研修時間	5. 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）	
ねらい（到達目標）	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)介護におけるコミュニケーション	3	【講義演習内容】 （１）介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、 ○傾聴、○共感の応答 （２）コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語コミュニケーションの特徴 （３）利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い （４）利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、 ○失語症に応じたコミュニケーション技術、○構音障害に応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3	【講義演習内容】 （１）記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、 ○介護に関する記録の種類、○個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、○ヒヤリハット報告書、 ○5W1H

		(2) 報告 ○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 ○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、○ケアカンファレンスの重要性
(合計時間数)	6	

修了時の評価ポイント	・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。 ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材

科目及び研修時間	6. 老化の理解（6時間）	
ねらい（到達目標）	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	【講義演習内容】 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応（反射）の変化、○喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響
(2)高齢者と健康	3	【講義演習内容】 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、○循環器障害の危険因子と対策、○老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）、○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい
（合計時間数）	6	

修了時の評価ポイント	・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材

科目及び研修時間	7. 認知症の理解（6時間）	
ねらい（到達目標）	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)認知症を取り巻く状況	1.5	【講義演習内容】 認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点（できることに着目する）
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	1.5	【講義演習内容】 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1.5	【講義演習内容】 (1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状（BPSD）、○不適切なケア、○生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通したコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア
(4)家族への支援	1.5	【講義演習内容】 ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減（レスパイトケア）
（合計時間数）	6	
修了時の評価ポイント	・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違い	

	について列挙できる。 ・認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。 ・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。 ・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。 ・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。 ・認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。 ・家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて列挙できる。
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材

科目及び研修時間	8. 障害の理解（3時間）	
ねらい（到達目標）	障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)障害の基礎的理解	1.0	【講義演習内容】 (1) 障害の概念と I C F ○ I C F の分類と医学的分類、○ I C F の考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ○ ノーマライゼーションの概念
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	0.75	【講義演習内容】 (1) 身体障害 ○ 視覚障害、○ 聴覚、平衡障害、○ 音声・言語・咀嚼障害、○ 肢体不自由、○ 内部障害 (2) 知的障害 ○ 知的障害 (3) 精神障害（高次脳機能障害・発達障害を含む） ○ 統合失調症・気分（感情障害）・依存症などの精神疾患、○ 高次脳機能障害、○ 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心身の機能障害
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	0.75	【講義演習内容】 家族への支援 ○ 障害の理解・障害の受容支援、○ 介護負担の軽減
（合計時間数）	3	

修了時の評価ポイント	・ 障害の概念と I C F について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ・ 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材

科目及び研修時間	9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）	
ねらい（到達目標）	・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を取得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)介護の基本的な考え方	3	【講義演習内容】 ○理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、○法的根拠に基づく介護
(2)介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	【講義演習内容】 ○学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、○こころの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がこころに与える影響
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	【講義演習内容】 ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、○自律神経と内部器官に関する基礎知識、○こころとからだを一体的に捉える、○利用者の様子の普段との違いに気づく視点
(4)生活と家事	6	【講義演習内容】 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 ○生活歴、○自立支援、○予防的な対応、○主体性・能動性を引き出す、内 ○多様な生活習慣、○価値観
(5)快適な居住環境整備と介護	4.5	【講義演習内容】 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故、○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与
(6)整容に関連したこころとからだのし	6	【講義演習内容】 整容に関する基礎知識、整容の支援技術

くみと自立に向けた介護		○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、○身じたく、○整容行動、○洗面の意義・効果
(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7.5	【講義演習内容】 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用・自立支援、○重心・重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原則、○移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、○移動介助（車いす・歩行器・つえ等）、○褥瘡予防
(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	【講義演習内容】 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 ○食事をする意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、○咀嚼・嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備（時間・場所等）、○食事に関連した福祉用具の活用と介助方法、○口腔ケアの定義、○誤嚥性肺炎の予防
(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	【講義演習内容】 入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○羞恥心や遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部清浄（臥床状態での方法）、○足浴・手浴・洗髪
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた	6	【講義演習内容】 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要

介護		困の理解と支援方法 ○排泄とは、○身体面（生理面）での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、○排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）
(11)睡眠に関連した ところとからだのし くみと自立に向けた 介護	4.5	【講義演習内容】 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ○安眠のための介護の工夫、○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、○安楽な姿勢・褥瘡予防
(12)死にゆく人に関 連したところとから だのしぐみと終末期 介護	4.5	【講義演習内容】 終末期に関する基礎知識とところとからだのしぐみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 ○終末期ケアとは、○高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、○臨終が近づいたときの兆候と介護、○介護従事者の基本的態度、○多職種間の情報共有の必要性
(13)介護過程の基礎 的理解	3	【講義演習内容】 ○介護過程の目的・意義・展開、○介護過程とチームアプローチ 事例を提示し、介護過程を展開する。
(14)総合生活支援技 術演習	9	これまでの生活支援技術の確認・復習をおこなう。 事例を提示し、適切な生活支援技術を検討する。
（合計時間数）	75	

修了時の評価ポイント	・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の
------------	--

	介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ・利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。 ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。 ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ・装うことや整容の意義について解説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材 介護実習室設備品・教材など 家政被服実習室設備品・教材・食材など

科目及び研修時間	10. 振り返り（4.5 時間）	
ねらい（到達目標）	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる	
項目名	時間数	講義・演習内容
(1)振り返り	3	【講義演習内容】 ○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1.5	【講義演習内容】 ○継続的に学ぶべきこと、○研修修了後における継続的な研修について、
（合計時間数）	4.5	

修了時の評価ポイント	
使用する機器・備品等	指定テキスト 配布プリント 視覚教材（DVD・VHS など）・視聴覚機材

修了試験	1.5	筆記試験（50 問 60 分） 試験終了後に解説をおこなう。
------	-----	-----------------------------------